

★今、開かれる ベネズエラのあらたな未来への扉」 =おおさかAALA3月号

ベネズエラのセイコー・イシカワ駐日大使は2月5日、「今、開かれる ベネズエラのあらたな未来への扉=アメリカの主権侵害と新型コロナ、2つの困難を乗り越えて見えてきたもの」と題してオンライン講演会を行いました。イシカワ大使の講演から、紙面の関係で経済制裁部分に絞って紹介します。

詳細は以下のアドレス

<https://youtu.be/Smicz6gIfBY> で
直接動画を見ることも可能です。



異例の事態に直面する世界

世界は今、異例の事態に直面しています。ベネズエラも同じです。ベネズエラは複雑な経済・政治情勢に直面してきました。しかし今いくつかの条件によって、新たなフェーズが幕を開けようとしています。

まず国内では、与党と一部野党が合意し、数年ぶりにそろって国会で議論の場につくことができました。国際的には、ベネズエラ国民に様々な攻撃をしてきた米国自身の中で（バイデン政権が誕生するなど）変化の芽がみられます。

今、未来に向かって開かれようとしている扉は、ベネズエラが対応を余儀なくされてきた2つの課題を背景としています。

1つ目は、トランプ政権によるベネズエラの体制転換を狙う戦略に対するベネズエラ国民の抵抗です。2つ目は、今の世界と共通した課題、新型コロナウイルスの感染拡大です。他国と同様、ベネズエラ政府にとって、パンデミック対応は最優先課題です。

これら2つの課題から起きていることの真実を知ることができました。その真実とは何か。2つの課題によって未来がどのように開けたのか。

中南米支配をめざす米国

米国の体制転換戦略は、ベネズエラが平和的民主的に自らの道を拓き、発展、社会正義、福祉をめざすのを止めるため、できる限りのことをすべてやるというも

のです。米国の目的は、ベネズエラ政府を倒し、ベネズエラが育ててきた民主主義モデルを破壊すること、革命を率いる政治・社会勢力を消し去ること、国の支配権を手にする事です。そして“米国の裏庭”、つまり中南米への支配を確立しようとするものです。

宣戦布告のない戦争

攻撃は宣戦布告のない戦争という形です。2015年から続いている対ベネズエラ経済・金融・貿易封鎖＝経済制裁は、この戦争の経済分野での具体策といえます。2014年から19年の6年間でベネズエラは歴史上最大66%の外貨収入の減少を記録しました。年には、国営石油会社PDVSAの米国子会社Citgo（米国内で5千カ所のガソリンスタンドを運営している）の利益の本国送金を停止し、収入下落はピークに達しました。

多くの国が英国の中央銀行に金備蓄（ゴールド）を預けています。ベネズエラも同様ですが、英国の中央銀行が、米国の経済封鎖に同調し、ベネズエラの資金を違法に留め置いています。そのことで新型コロナワクチン360万回分の支払いができない状態です。そのために我が国は、国民への対応に必要な資金にアクセスできていません。

経済制裁は、革命後改善されてきた5歳未満乳幼児死亡率の低下が再上昇したり、スラム街の住人を家の所有者にする“ベネズエラ大住宅計画”の建設材料や機械輸入にも影響が出て支障がでています。

コロナパンデミック対応

冒頭、2つ目で紹介したコロナパンデミックの対応で、ベネズエラは比較的成功しています。なぜか？ その答えは1999年にチャベス大統領がはじめたボリバル革命の本質にあります。

現在、ベネズエラでは全国民が無償で医療を受けられます。2000年、キューバとの歴史的な協力関係を締結し、何千名ものキューバ人医師の派遣を受け、ベネズエラからは石油を送り、貧しい地域で無料の初期診療を提供するバリオ・アドントロ計画など新たな公衆衛生制度をつくりました。

各共同体が自身で設置し、キューバから派遣された優れた医師らが診察する医療拠点が、新型コロナと闘うための強力な武器になりました。医療委員会は千から2千人の共同体で市民ボランティアで作っていますが、共同体の医師を補佐し、住民を一軒ずつ訪問しコロナ対応をしています。多くの市民が今、革命の意義を再認識しています。

みなさま、ベネズエラの動きをじっと見つめてください。その中に、世界の行方を考える大切な流れが見えるはずです。



住民でつくる医療委員会が自発的に専門家を補助



ベネズエラの大住宅計画